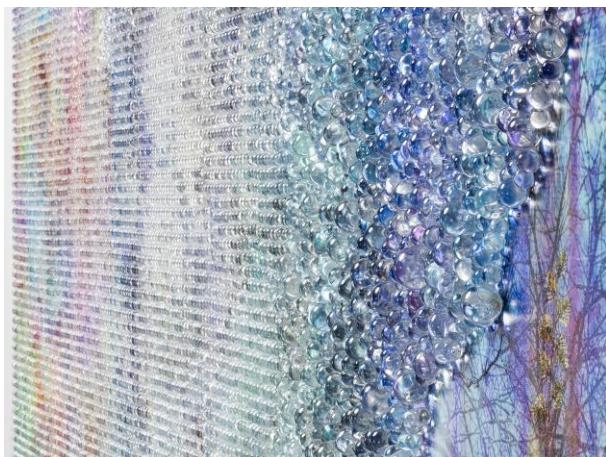


美術家の清川あさみと彫刻家の名和晃平による 二人展「Invisible Garden」 9 月 16 日(水)より開催



ポーラ ミュージアム アネックス(東京・中央区銀座)では、美術家の清川あさみと彫刻家の名和晃平による二人展「Invisible Garden」を 2026 年 9 月 16 日(水)から 11 月 8 日(日)の会期で開催します。

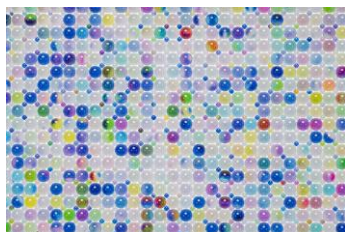
「Invisible Garden」は、清川の著書『みえないにわ - Invisible Garden』の刊行をきっかけに構想された展覧会です。情報が絶えず流動し、現実と仮想、自然と人工の境界をもはや定義できない現代。本展は、滴や孢子、微生物や動植物、人の記憶や時間、夢、想像力といった有形無形のさまざまなものたちが息づく風景としての「にわ」を描き出します。

清川と名和による初めての二人展となる今回、展示空間ではそれぞれの作品が個々の存在感を保ちつつ呼応することで、有機的な全体がかたちづけられます。清川の刺繍によって紡がれる物語や、名和のセルによって被覆・変換されたイメージ——白で統一された空間のなかでそれらの色彩と輪郭は静かに浮かび上がり、ゆるやかに結びつきながら、一つの「にわ」が姿をあらわします。

この中心をなすのが、二人の共作となる全幅約 9 メートルの大型新作《PixCell-Our New World》です。風景写真や生成 AI 画像の断片を用いて清川が構成した画面(Our New World)を、名和が透明のセルによって覆うことで、イメージは分割と統合を繰り返しながらおぼろげに揺らめきます。それはまさしく、両者の表現が交差するなかで現れた新たな風景といえるでしょう。さらに会場では、名和の代表作「PixCell」の近年の展開のひとつである「PixCell-Random」や清川の「Serendipity」など、新作も併せて展示します。

鑑賞者は空間を歩きながら、断片的なイメージを自身の記憶や感覚と重ね合わせ、そこに潜む生命の気配を拾い集めていきます。「にわ」とは完成された風景ではなく、世界と人々が出会うなかで生起する感覚的な場です。「Invisible Garden」は、作品と空間の共鳴を通じて、鑑賞者一人ひとりの心にそれぞれ異なる「みえないにわ」をゆつくりと育みます。

なお、会期中は 3 階ギャラリーに加え、1 階店舗「POLA GINZA」でも作品を展示。植物や滴をモチーフとした作品たちによって構成されるインスタレーションが展開されます。清川の書籍を起点に広がる世界が二つの空間をつなぎ、鑑賞者はその間を散策するようにして、一步一步、新たな発見や対話に巡り合うことでしょう。



(冒頭作品): Asami Kiyokawa | Kohei Nawa *PixCell-Our New World* (Detail) 2026 mixed media approx.1300×9000×85mm Photo by Nobutada OMOTE
(上記作品5点 左から): 1. Asami Kiyokawa | Kohei Nawa *PixCell-Our New World* (Detail) 2026 mixed media Photo by Nobutada OMOTE / 2. Asami Kiyokawa | Kohei Nawa *PixCell-Random* (Detail / Series reference) 2026 mixed media Photo by Nobutada OMOTE / 3. Asami Kiyokawa | Kohei Nawa *Metamorphosis Garden (full bloom)* (Detail) 2021 mixed media Photo by Nobutada OMOTE / 4. Asami Kiyokawa *Serendipity (Diverge)* 2026 mixed media Photo by Nobutada OMOTE / 5. Asami Kiyokawa *Sep.14* (Detail) 2026 photograph / acrylic / thread Photo by Nobutada OMOTE

【報道関係者の皆さまからのお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス 広報室

広報担当 Tel 03-3563-5540 / Mail webmaster@po-holdings.co.jp

【お客様お問い合わせ先】ポーラ ミュージアム アネックス Tel 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

展示概要

タイトル： 清川あさみ | 名和晃平「Invisible Garden」

会 期： 2026年9月16日(水)-11月8日(日) ※会期中無休

開館時間： 11:00-19:00 (最終入場は18:30まで) ※11月6日(金)~8日(日)のみ10:00開館

入 場 料： 無料

会 場： ポーラ ミュージアム アネックス (〒104-0061 中央区銀座 1-7-7 ポーラ銀座ビル 3階)

公式サイト <http://www.po-holdings.co.jp/m-annex/>

※諸事情により内容が変更になる場合がございます。ギャラリーHPで最新の情報をご確認のうえ、ご来場をお願い致します。

主 催： 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス

協 力： ASAMI inc., Sandwich Inc.

■関連企画：2026年の「アートウィーク東京」に参加いたします。

詳細は、アートウィーク東京の公式サイト <https://www.artweektokyo.com/> をご確認ください。



プロフィール

清川あさみ

現代美術家／アートディレクター

兵庫県淡路島生まれ。東京を拠点に活動。写真や雑誌、布、書物に刺繍を施す独自の表現を出発点に、「見えないものを可視化すること」をテーマに作品を制作。近年は、記憶・神話・自然・AI時代の想像力を主題に、平面作品、インスタレーション、公共アート、映像、出版など領域を横断して活動している。



代表作に「Our New World」「Dream Time」「Serendipity」シリーズ。

虎ノ門ヒルズ駅の大型パブリックアート《Our New World (Toranomon)》をはじめ、国内外で多数の展覧会を開催。また教育活動にも力を注ぎ、大阪芸術大学で特別講義を行うほか、子どもたちとの創作プロジェクトや地域文化事業にも取り組む。

宮沢賢治『銀河鉄道の夜』をはじめとした書籍の絵を手がけるほか、著書に『千年後の百人一首』など。2026年、新刊『みえないにわ - Invisible Garden』刊行予定。

名和晃平

彫刻家／Sandwich Inc.主宰／京都芸術大学教授

1975年生まれ。京都を拠点に活動。2003年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2009年「Sandwich」を創設。感覚に接続するインターフェイスとして彫刻の「表皮」に着目し、セル(細胞・粒)という概念を機軸に創作を続ける。彫刻の定義を柔軟に解釈し、鑑賞者に素材の物性がひらかれてくるような知覚体験を生み出してきた。



近年では、アートパビリオン《洗庭》など、建築のプロジェクトも手がける。2015年以降、ベルギーの振付家 ダミアン・ジャレとの協働によるパフォーマンス作品《VESSEL》《Mist》《Planet [wanderer]》《Mirage》を制作。2018年にフランス・ルーヴル美術館 ピラミッド内にて彫刻作品《Throne》を特別展示。2023年、フランス・セヌ川のセガン島に屋外彫刻作品《Ether (Equality)》を恒久設置。

近年の個展として、「Sentient」(SCAI THE BATHHOUSE、東京、2025)、「Photon Camp」(Pace Gallery、ロサンゼルス、2026)がある。